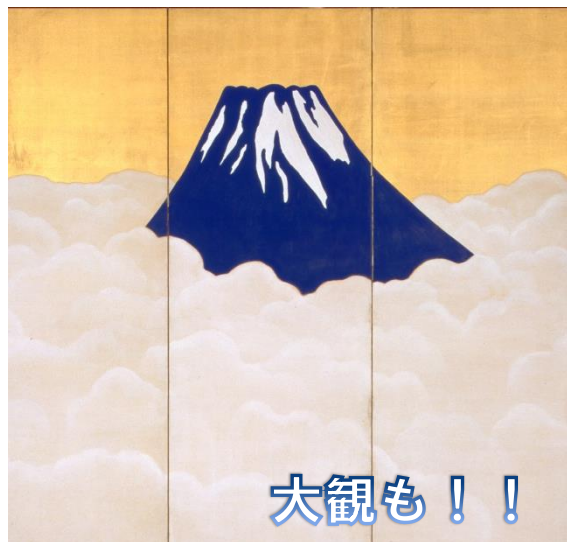


東西の絶景

モネ、ゴーギャン、若冲も大観も



モネ



ゴーギャン



石田徹也も！

○話題の作品、一挙公開！！

伊藤若冲《樹花鳥獣図屏風》 石田徹也《飛べなくなった人》
あの作品がみられるチャンス！

○30年のソコヂカラ！！

日本画から西洋の印象派、現代美術まで
開館以来収集してきた古今東西の名品を惜しみなく大公開！

会期：2016年4月12日(火)～6月19日(日)

会期中展示替えがあります(前期：4月12日～5月15日、後期：5月17日～6月19日)

【プレスリリースの問い合わせ先】

静岡県立美術館 学芸課 担当 泰井、浦澤

静岡市駿河区谷田 53-2

TEL 054-263-5857

FAX 054-263-5742

インフォメーション

- 会場： 静岡県立美術館
- 会期： 2016年4月12日(火)～6月19日(日)
会期中展示替えがあります（前期：4月12日～5月15日、後期：5月17日～6月19日）
- 開館時間： 午前10時～午後5時30分※入館は午後5時まで
- 休館日： 毎週月曜日※ただし、5月2日(月)は開館。
- 観覧料： 一般 600円(400円)、70歳以上 300円(200円)、大学生以下無料
※()内は前売・団体料金。
※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方と付添者1名は無料。
※収蔵品展、ロダン館も併せてご覧いただけます。
- 主催： 静岡県立美術館、静岡新聞社・静岡放送

概要

静岡県立美術館は、風光明媚な日本平の麓にある美術館として、開館以来、日本と西洋の風景画の収集につとめてきました。このたび、開館30周年を記念して、重要文化財を含む風景画の優品を一堂に展示します。

日本では、室町時代以来、中国の山水画をふまえた風景の捉え方や技法が受け継がれてきましたが、一方で若冲のような斬新な表現を確立した画家もあり、多様な風景表現が生み出されてきました。その後、明治になると、油彩画が本格的に日本に入ってきます。風土や伝統に根差した日本人ならではの洋画と西洋絵画の違いをご覧ください。さらに、現代美術のコーナーでは、今を生きる私たちの心の風景を映し出した作品を紹介します。最後に、ふだんはお見せする機会のない、作品の制作秘話を記した箱を公開するとともに、明治の国学者によるコレクションなどをおして、作品を収集し、後世へ伝える意味を見つめ直します。

ぜひ、美術館に並ぶ「東西の絶景」を前に、ひととき空想の散歩をお楽しみください。

風景とロダンの
静岡県立美術館
Shizuoka Prefectural Museum of Art

30th ANNIVERSARY

つながる、次へ

展覧会構成

第1章 日本画 豊穰なる山水／風景

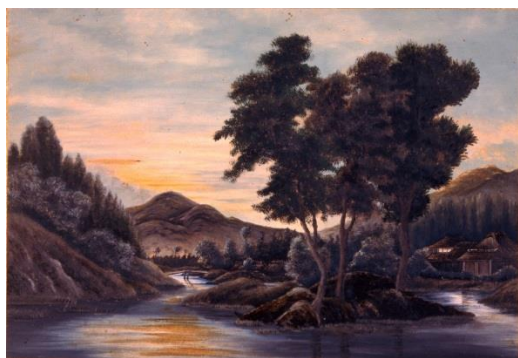
伊藤若冲
《樹花鳥獸図屏風》
(右隻)
前期展示



横山大観
《群青富士》(右隻)
後期展示

この章では、日本画コレクションより、極めつけの逸品を集めました。雄大な空間表現と爽快な色彩が目を楽しませる池大雅《龍山勝会・蘭亭曲水図屏風》(重要文化財)、富士山を大胆かつ鮮やかに描いた横山大観《群青富士》など、多彩な風景表現をご紹介します。さらに、独自の表現で人気を集める伊藤若冲《樹花鳥獸図屏風》など、コレクションの広がりを示す作品も取り上げます。(会期中、大幅な展示替えがあります)

第2章 日本人の油彩画—西欧への挑戦



徳川慶喜《風景》



須田国太郎《筆石村》

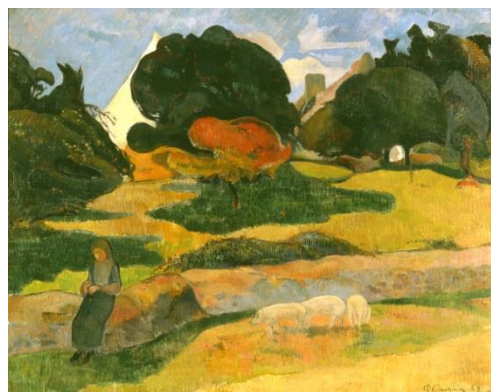
明治になると、油彩画が本格的に西洋からもたらされます。例えば、川村清雄《巨岩海浜図》は、神代杉から切り出した板に西洋伝来の油彩技法を巧みに用いて描かれています。ここには、日本と西洋との融合を見ることもできるでしょう。

このように、画家たちは、西洋伝来の油彩画と格闘しながら、自らの油彩画を作り出そうとしました。この章では、徳川慶喜、和田英作、佐伯祐三、須田国太郎などの作品を紹介し、一人一人の画家たちの挑戦を作品によってご覧いただきます。

第3章 西洋—近代の風景画



クロード・モネ 《ルーアンのセーヌ川》



ポール・ゴーギャン 《家畜番の少女》

田園や農事を描いたヘレニズム期や古代ローマ時代の絵画に始まるとされる西洋の自然景観の描写は、17世紀前後には一つの絵画ジャンルとして確立します。一口に風景画と言っても、理想的、牧歌的、写実的など、異なる様式や表現があり、それは時代や国、作者や人々の思想・嗜好などを反映しています。この章では、19世紀から20世紀半ば、すなわち近代の西洋風景画をご覧ください。風景画の理論や技法、また絵画材料の発達などによって目まぐるしく展開・変遷した歴史の一コマをお楽しみください。

第4章 戦後から現代へ



吉原治良 《work》



石田徹也 《飛べなくなった人》

「今を生きる美術館」として、現代美術を紹介します。

戦後日本を代表する前衛芸術グループ「具体」の白髪一夫や元永定正が、「国際的同時代性」の土壌に立ち、形式にとらわれることなく挑戦した抽象絵画は、精神的な意味において、高度成長期の熱気を帯びた日本の風景を映し出しているといえるでしょう。一方で石田徹也が、1990年代半ばから2000年代初頭に描いた絵画には、管理社会の中で、人間性を奪われつつある今を生きる人々の苦悩と葛藤が表されています。

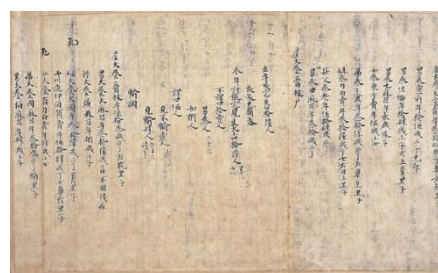
第5章 コレクションを伝える



狩野永岳《富士山登龍図》



《後嵯峨上皇幸西園寺詠断花和歌》重要文化財（後期展示）



《天平四年山背国愛宕郡計帳断簡》重要文化財（前期展示）
（前期展示）

美術館活動は展覧会を開くだけではありません。失われてはならない作品を収集し、保存すること、作品の伝来や社会的背景などを調査することも重要な仕事です。最終章では、個人の熱意によって集められ、美術館に寄贈されたコレクションや、長い年月にわたって作品を収めてきた箱、作品に付属する書類、そして当館の創設期の収蔵品である小杉楯邨（すぎむら）のコレクションなどを展示します。正倉院文書（重要文化財）を含む小杉コレクションは、明治の国学者の豊かな教養を映し出すだけでなく、書斎の机辺に季節にあわせた絵や書を飾るといふ、わたしたちが失ってしまった、美しい暮らしのスタイルを、今に、そして、未来に伝えるものです。

風景とロダンの
静岡県立美術館
Shizuoka Prefectural Museum of Art

30th ANNIVERSARY

つながる、次へ

会期中イベント

作品をより深く知る

○特別講演会（いずれも会場は当館講堂、申込不要、無料、先着250名様まで）

1. 「あれから30年—日本画収集をふりかえって」

日時：4月24日（日） 14：00 ～ 15：30

講師：山下善也氏（東京国立博物館主任研究員、元当館主任学芸員）

2. 「コレクションが美術館の命と考えられていた頃—美術館は百年の計」

日時：5月21日（土） 14：00 ～ 15：30

講師：越智裕二郎氏（西宮市大谷記念美術館館長、元当館学芸課長）

○フロアレクチャー（集合場所：企画展第1展示室 申込不要、要観覧料）

当館学芸員が展示室にて解説を行います。

日時：4月17日（日）、4月23日（土）、5月8日（日）、5月20日（金）、
6月5日（日）、6月12日（日）、6月17日（金） いずれも13:30 ～

○学芸員のこの一点（集合場所：企画展第1展示室 申込不要、要観覧料）

当館学芸員がコレクションの中からお勧めの一点を選び解説します。

日時：4月13日（水）、4月20日（水）、4月27日（水）、5月11日（水）、
5月18日（水）、5月25日（水）、6月1日（水）、6月8日（水）、
6月15日（水） いずれも13:30 ～

若冲になったつもりで制作体験

○ちょこっと体験・ドット若冲（会場は当館エントランス、申込不要、無料、）

日時：4月29日（金・祝）～5月3日（火・祝）

10：00～12：00／13：00～16：00

○みんなでドット若冲（会場は当館実技室ほか、要申込、無料、）

日時：5月4日（水・祝）～5日（木・祝）

※詳細は1か月前から、美術館ウェブサイトおよび館内配布チラシでお知らせします

風景とロダンの
静岡県立美術館
Shizuoka Prefectural Museum of Art

30th ANNIVERSARY

つながる、次へ